プログラム名	「地域づくりコース」
目的	● 相談支援従事者現任研修における「相談支援専門員による地域づくり」に係るプログラムを展開するために必要となるファシリテーターの資質について確認する。 ● 自らの地域づくり実践を振り返り、ファシリテーターの役割を果たすために活用できる要素に気づく。（理論的な理解を促すために実践を例えて説明できるための力を獲得する。） ● 法定研修における「地域づくり」と地域自立支援協議会の活用および効果的な運営の連動について考える。
コース対象者	（1） 自身がその業務において現に「地域づくり」に係る実践を行っている者であること。 （2） 上記（1）に該当しない場合、「地域づくり」に係る実践を今後行うことに強い意欲がある者であること。 （3） 相談支援従事者現任研修に講師等として企画立案に従事しており、今年度の「地域づくり」に係るプログラムを担当する（予定の）者であること。 （4） 上記③に該当しない場合、相談支援従事者現任研修のカリキュラム・具体的内容について、昨年度の実施結果及び今年度の検討状況を把握し理解している者であること。

タイムスケジュール

6月20日（木）

No.	項目	内容	時間		準備物
1	目的・内容説明	進行役（大平）よりプログラムについての説明	9：00～9：20	20	
演習1「地域づくりを意識化するための演習」					
2	デモンストレーション	①事例報告（岡部） ②事例への質問（山口、森岡、城戸、大平） ③修正した事例の報告（岡部）	9：20～10：20	①20 ②20 ③20	
休憩（10分）					
3	グループワーク①-1	①アイスブレイク ②事例報告Ⅰ ③事例に対する質問Ⅰ ④事例報告Ⅱ ⑤事例に対する質問Ⅱ	10：30～12：10	①15 ②20 ③20 ④20 ⑤20	
昼休憩（60分）					
4	グループワーク②-2	①事例報告Ⅲ ②事例に対する質問Ⅲ ③事例報告Ⅳ ④事例に対する質問Ⅳ	13：10～14：45	①20 ②20 ③20 ④20	
休憩（10分）					
5	個人ワーク	○報告に対する質問を受けて事例を修正	14：55～15：40	45	
休憩（10分）					
6	グループワーク②	①修正後事例の報告Ⅰ ②報告への感想Ⅰ ③報告Ⅱ ④感想Ⅱ ⑤報告Ⅲ ⑥感想Ⅲ ⑦報告Ⅳ ⑧感想Ⅳ	15：50～17：10	①15 ②5 ③15 ④5 ⑤15 ⑥5 ⑦15 ⑧5	

プログラム詳細

【演習１】「地域づくりを意識化するための演習」

1. プログラム趣旨

・ 自身が行ってきた相談支援の実践を振り返り、フォーマルサービスの調整にとどまらないインフォーマルな地域資源の活用や開発など「地域づくり」に関わる取組を行っていたことについて気づく。相談支援従事者研修受講者等に対して「地域づくり」についての理解を得るために、その実践と気づきを活用して分かりやすく説明する技術を身につける。

2. 内容

（１）事前課題

■「利用者を中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例」の作成

・ 利用者中心としながらインフォーマルな関係性の構築などにつながった事例を選択
・ 様式に沿って各項目について記入
・ 記入に際しては個人情報保護に留意（個人名、個別名称、その他個人が特定されやすい要素をデフォルメ化する）
・ 演習当日に使用するモデル事例を例示する
・ 事前に提出（講師用）
・ 当日グループメンバー分を印刷して持参（４枚）
・ 演習後はメンバーから回収

＜記入項目＞

① 利用者とどのように出会ったのか
② どのように利用者のニーズをとらえていたか
③ 利用者から地域はどのように見え、どのような環境に置かれているのか（エコマップ）
④ どのようなプロセスでどのような関係性を構築したか、その関係性がどう変わっていったか（ビフォーアフターエコマップ）
⑤ どのような結果につながったのか

（２）演習の流れ

① ４人１組のグループに分かれる
② アイスブレイク（15 分）
③ 各個人から事前課題①を使用して事例の概要、支援のプロセス等についてメンバーに対して報告する（20 分／人）
④ メンバーからその他の受講者からは支援プロセスにおける「地域づくり」を意識化し、論理的な整理を促すための質問を行い、報告者が回答する（20 分／人）
⑤ 各個人で事例に対しての質問を受けて、事例の表現方法等についての修正を行う（50 分）
⑥ 各個人から修正した事例を再報告し、各メンバーから感想を述べる（20 分／人）

タイムスケジュール					
6月21日（金）					
No.	項目	内容	時間		準備物
演習２「地域（自立支援）協議会の活用と運営」					
1	グループワーク	①演習内容説明 ②フロー図についての説明・質疑Ⅰ ③フロー図についての説明・質疑Ⅱ ④フロー図についての説明・質疑Ⅲ ⑤フロー図についての説明・質疑Ⅳ ⑥各受講者の報告からの気づき共有 ⑦気づきの全体共有 ⑧地域体制強化協働支援記録書の供覧 ⑨記録書に関する意見交換ｎ	9：00～10：40	①10 ②8 ③8 ④8 ⑤8 ⑥15 ⑦15 ⑧15 ⑨15	
休憩（15分）					
演習３ まとめ「現任研修の効果的な実施に向けた工夫」					
2	グループワーク	① ２日間を振り返って意見交換 ② 意見の全体共有 ③ 講師からのまとめ	10:55～12:00	①30 ②15 ③10	
プログラム詳細					

第三日目

【演習２】協議会を活用した地域課題の解決プロセスの見える化

1. プログラム趣旨

・協議会を活用して個の課題を地域課題として共有、検討、実践していくためのプロセスを見える化する。それを通じて、地域づくりにおける協議会活用の方法について理解を深めるとともに、相談支援従事者研修受講者に分かりやすく説明できる技術を身につける。

・地域体制強化共同支援加算の活用についての理解を深め、研修受講者等に説明できる知識を身につける。

2. 内容

（１）事前課題

① 「個別の相談活動から地域の課題を集約し共有・協議を行うフロー図」の作成

・ 自身が活動する地域における地域（自立支援）協議会やその他の協議の場等を活用した課題解決のためのフロー図を作成する

・ 協議会の組織図ではないことに留意

・ モデルフローを例示はするが、基本的な枠組みはフリーとして各受講者の理解や把握状況に応じた作成とする

・ 以下の質問に答えることを想定した説明資料となるように作成

＜質問事項＞

- 個の課題をどのように共有していますか？
- 個の課題から地域課題をどのように見出していますか？
- 個の課題から集約された地域課題を地域においてどのように共有していますか？
- 共有された個の課題はどのように解決に向けた協議が行われていますか？
- 協議された解決策等はどのように地域において共有されていますか？
- 解決策等はどのように取り組まれていますか？
- この流れ（仕組み）に課題はありますか？どのような課題ですか？

・ 事前に提出（講師用）
・ 当日グループメンバー分を印刷して持参（４枚）

② 地域体制強化共同支援記録書の作成
・ 地域体制強化共同支援加算に係る記録書を自ら関わる事例等により作成する
・ 記入に際しては個人情報保護に留意（個人名、個別名称、その他個人が特定されやすい要素をデフォルメする）
・ 事前に提出（講師用）
・ 当日グループメンバー分を印刷して持参（４枚）
・ 演習後はメンバーから回収

（２）演習の流れ
① 各個人から事前課題で作成したフロー図の内容を共有（５分報告／人＋質疑３分／人）
② 各受講者の報告から気づいたことの共有（15 分）
③ 気づきの全体での共有（10 分）
④ 事前課題で作成した地域体制強化協働支援記録書について供覧（15 分）
⑤ 効果的な記録書とするための記入の視点について意見交換（15 分）

【演習３】演習のまとめ「現任研修の効果的な実施に向けた工夫」

1. プログラム趣旨及び内容
・ 受講者自身の「地域づくり」の意識化を経て、主に現任研修の効果的な展開方法に関する工夫策について検討する。
2. 演習の流れ

（１）研修を振り返ってグループで意見交換（20 分）
（２）意見交換の内容を各グループから報告（各グループ２分）
（３）講師からのまとめ（10 分）

令和６年度相談支援従事者指導者養成研修（地域づくりコース）事例シート（モデル事例）

都道府県名：モデル県	受講者氏名：モデル太郎

【事例概要】

K さん（４８歳・男性）、糖尿病性網膜症（視覚障害１級）、単身アパート生活（離婚歴２回あり）で生活保護を受給中。 外出することはなく、知人の女性に弁当や買い物を頼んで生活している状況。

【出会い】

若い頃から酒量が多く、30 歳代で糖尿病の診断を受ける。40 代前半で 2 回目の離婚をしてから、単身アパート生活となる。その後、40 代半ば頃より視力低下が顕著となり電気工事会社の仕事を退職。以後、生活保護を受給しながら暮らしている 。

これまでは屋内を手探りで何とか生活することができていたが、光が分かる程度に視力低下が進み外出時の危険性が増したため、障害福祉サービスの利用を希望した。そこで 相談支援専門員と出会う。

【ニーズの把握】

初回のサービス等利用計画作成時は、生活の安心と安定を目的に家事援助（買い物と調理支援）を月30時間と通院等介助を月に5時間、地域定着支援の支給を受けた。モニタリング期間は毎月の決定を受ける。

モニタリングの際に自宅訪問すると、本人はテーブルに顔を伏せ、元気なく迎える状態であった。ヘルパーの支援にはある程度満足しており、生活のしづらさは軽減しているものの、抑うつ感が強く、訪問中も深いため息を吐くことが続く。

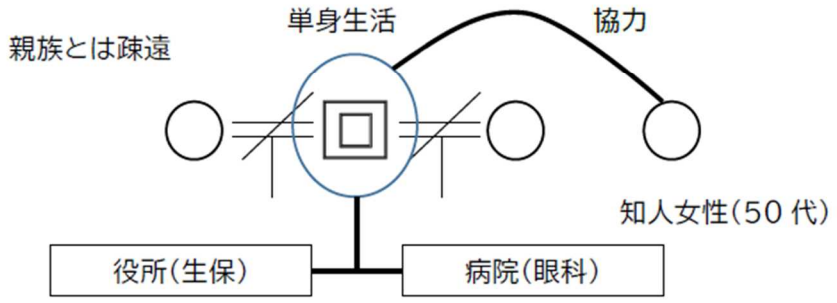
モニタリングでは、障害福祉サービスの利用満足度を把握することに加えて、ご本人の華の時代の会話に焦点を当てるように意識した。

相談支援専門員が関わり始めてから半年を過ぎる頃に、「必要な障害福祉サービスを利用しながら、今のアパートで安心して一人暮らしをしたい」ということと、「同行援護を通じて道を覚え、ゆくゆくは自力で移動できるようになりたい」というニーズに加えて、「何でも話せる仲間を作り、楽しく交流して充実した人生を送りたい」というニーズを把握した。

【利用者から見える風景及び置かれている環境（エコマップ）】

１．出会いの時点

現　状「知人女性、眼科、役所との接点」

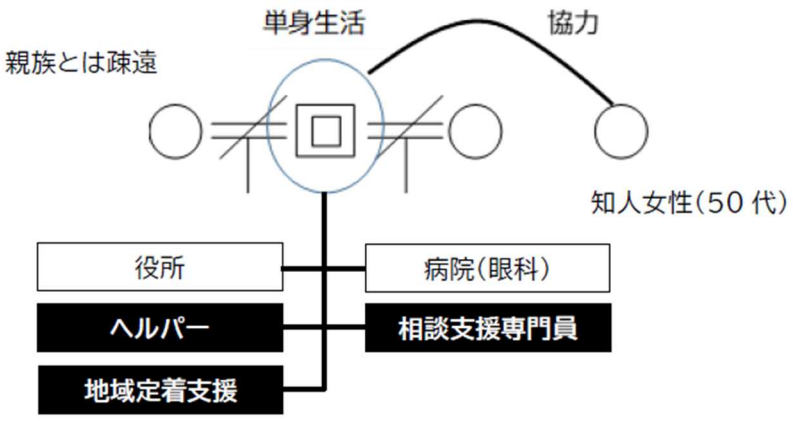


【関係性の構築とプロセス及び関係性の変化（アフターエコマップ）】

2．サービス等利用計画作成時

テーマ「障害福祉サービス関係者との出会い」

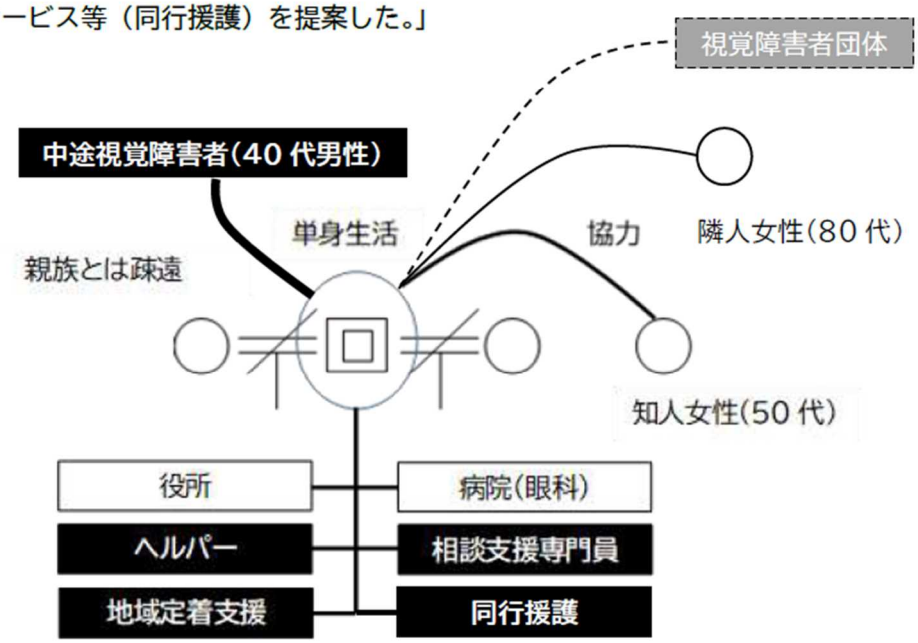
相談支援専門員の想いと支援「生活の安定を図るための障害福祉サービス導入し、モニタリングを通じて信頼関係を構築しながら真のニーズの把握した。」



3．６ヶ月～1 年目

テーマ「障害当事者との出会いによる情報量のアップ」

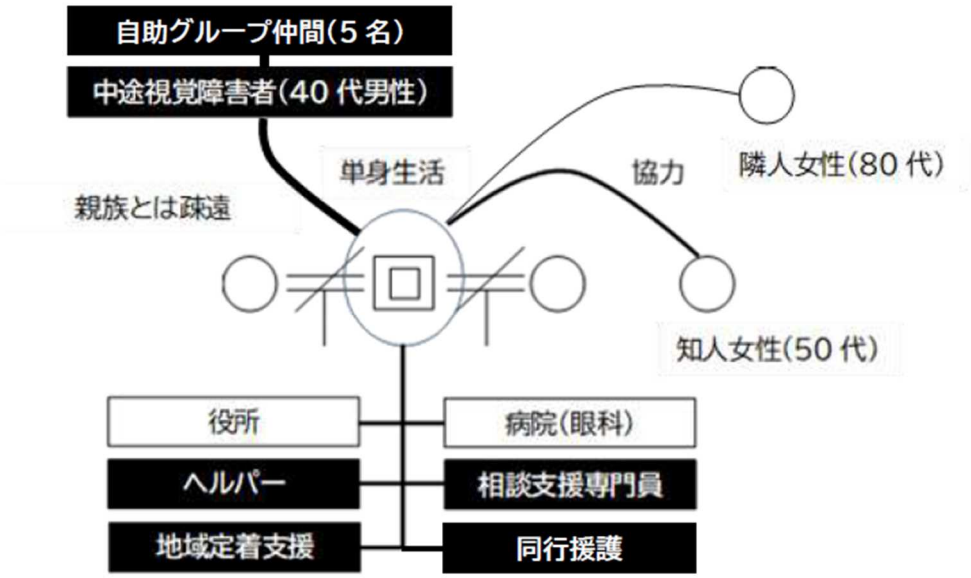
相談支援専門員の想いと支援「ご本人のハートに響く支援のために、同じ立場の障害者との出会いやご近所との接点をつくるとともに、ご本人の気持ちの変化を踏まえて不足しているサービス等（同行援護）を提案した。」



4．１～２年目

テーマ「自助グループの発足（代表）」➡花見に出かけたり、新聞や地元ＦＭを活用して活動

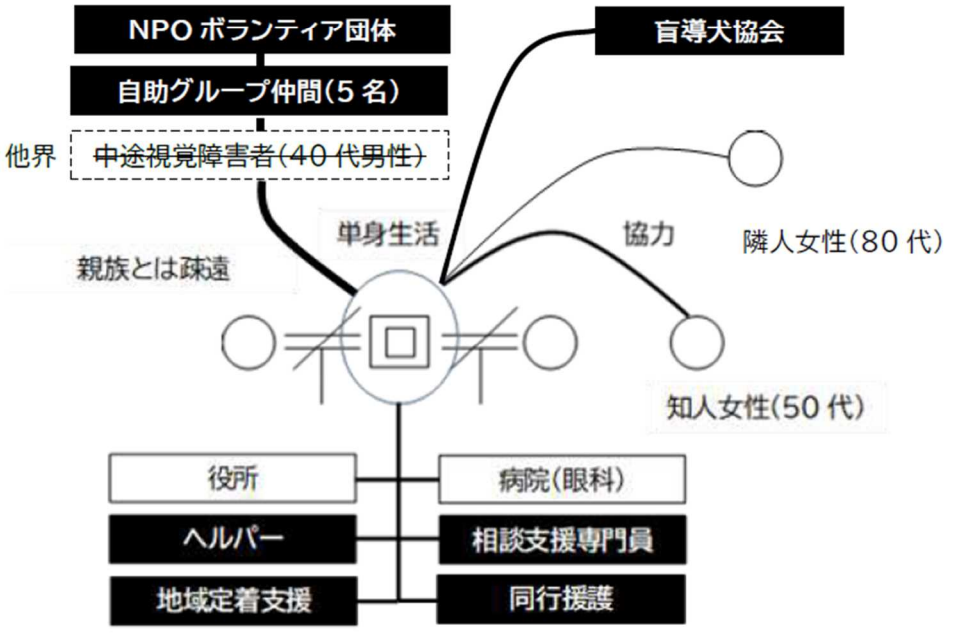
相談支援専門員の想いと支援「密な仲間関係の醸成、他の仲間への呼びかけを自発的に広げたり、同行援護事業者を通じて具体的な活動につながることを見守った。」



5．２～３年目

テーマ「ボランティアとのつながり」「盲導犬の検討」「親友との別れ（他界）」

相談支援専門員の想いと支援「親友との死別、ボランティア協力者の登場等さらに支援の輪とご本人が得られる情報の幅が広がる。自ら盲導犬に関する情報収集へ出かけてのマッチングに取組む等、セルフマネジメントするようになったことを見守った。」



【結果】

親友と死別した際は、かなり気分の落ち込みが激しかったが、その後は回復することができた。
相談支援専門員としては、支援開始時はご本人の暮らしに焦点を当て、生活の安定が図られた後は、ご本人の気持ちに焦点を当てた。ご本人の孤独感を軽減するために、当事者団体や当事者との接点を作る支援を行った。結果、ご本人は後に親友となる当事者を選択し、その後、2人は協力し合って自助グループを作った。
暮らしの安定と共に、気持ち（心）が安定してくると、ご本人自身がもつ力を発揮することができエネルギッシュに社会活動に取り組むようになり、ご本人は自発的に仲間や協力者を増やして行った。
ある程度、各種活動が軌道に乗ったことや親友の他界をきっかけに、再び自分自身のことを見つめ直していったように思われる。盲導犬への関心が向いたのは、共に生きていくためのパートナーを得たいという気持ちがあるからではないかと推測している。
現在は表情も明るくなり、ヘルパーのサービス量も家事援助を月 20 時間に減らし、知人やご近所の協力も得ながら安定した生活を送っている。

地域課題を抽出し解決に向けた協議着を行うためのフロー図（例）

＜課題説明＞

○　貴方の地域において、個の課題はどのような流れ（仕組み）で地域の課題として共有・協議されていますか。以下の問いに答えるための、フロー図を作成してください。

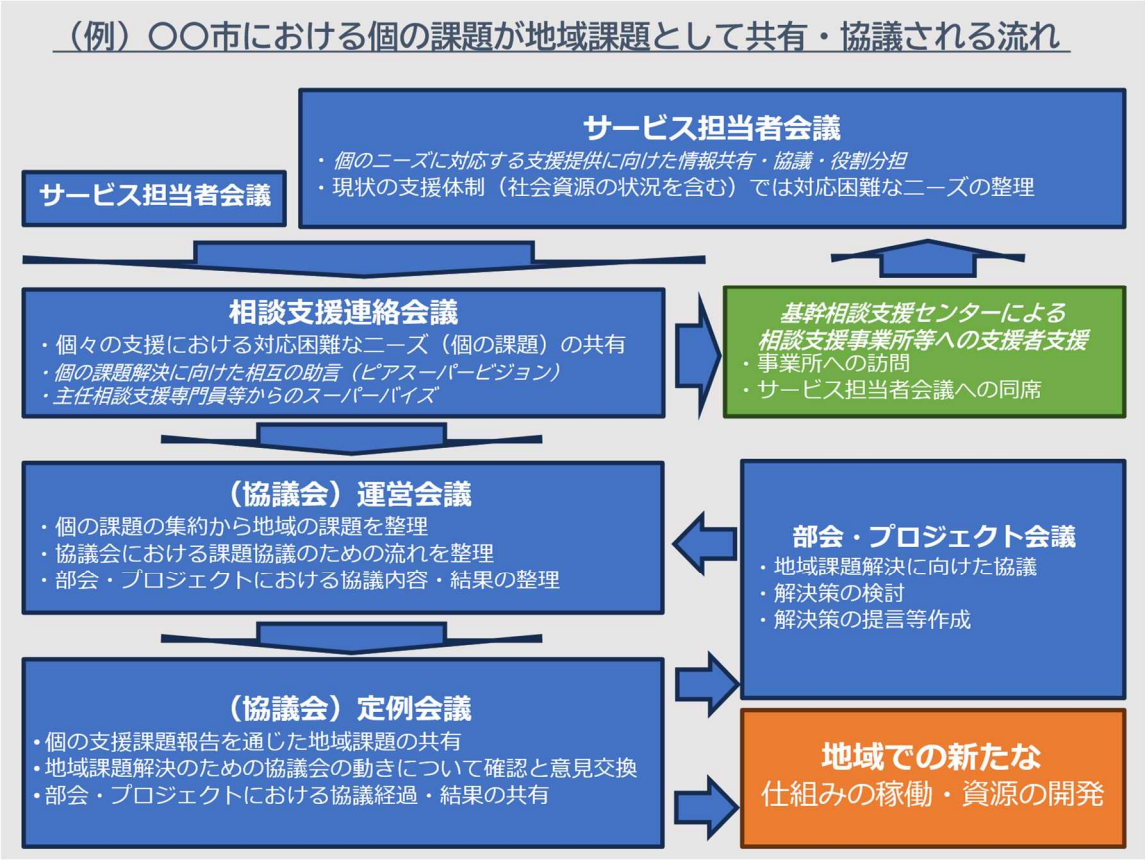
（問）

- ■ 個の課題をどのように共有していますか？
- ■ 個の課題から地域課題をどのように見出していますか？
- ■ 個の課題から集約された地域課題を地域においてどのように共有していますか？
- ■ 共有された地域課題はどのように解決に向けた協議が行われていますか？
- ■ 協議された解決策等はどのように地域において共有されていますか？
- ■ 解決策等はどのように取り組まれていますか？
- ■ 現在の仕組みに課題はありますか？どのような課題ですか？

○　事前提出の必要はありません。研修当日にご自身の分を含めて４部印刷をしてご持参ください。

都道府県名：	受講者氏名：

【フロー図】



【課題】

【課題3】

地域体制強化共同支援 記録書

【基本情報】

地域生活支援拠点等の名称	
協議会名: 報告年月日:	
共同支援に係る会議の 開催年月日・開催時間・開催場所	開催年月日: 開催時間: 開催場所:
担当計画相談支援事業所名: 担当相談支援専門員(氏名): 連絡先:	

【利用者情報】

ふりがな 利用者氏名　　(男・女) 生年月日(明・大・昭・平)　年　月　日(　歳)

【会議開催の目的・出席者】

会議開催の目的 (該当に○)	① 個別課題の解決 ② 地域課題、ニーズの把握 ③ 横断的な連絡調整 ④ 地域づくり・資源開発 ⑤ 地域生活支援拠点等の運営への提案 ⑥ その他(具体的に)		
会議の出席者	所属名	職種	氏名

【会議の具体的な内容】

※ 開催の目的に応じて記載することとし、必ずしも全ての項目に記載が必須ではない。

①利用者の支援の経過	
②利用者の支援上の課題	
③②の課題への対応策 (協議会への提案等を含む)	
④地域課題・ニーズの現状	
⑤地域生活支援拠点等の現状	
⑥地域生活支援拠点等の必要な機能の充足について	

【その他(特記事項)】